

安積遵哉 学位論文審査要旨

主査 岡田 太
副主査 藤原 義之
同 汐田 剛史

主論文

miR-181a induces sorafenib resistance of hepatocellular carcinoma cells through downregulation of RASSF1 expression

(miR-181aはRASSF1の発現抑制を介して肝細胞癌細胞のソラフェニブ抵抗性を誘導する)

(著者：安積遵哉、坪田智明、坂部友彦、汐田剛史)

平成28年 Cancer Science 107巻 1256頁～1262頁

参考論文

1. Prognostic relevance of miR-137 in patients with hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌患者におけるmiR-137の予後の関連性)

(著者：坂部友彦、安積遵哉、梅北善久、鳥口寛、波多野悦朗、廣岡保明、汐田剛史)

平成29年 Liver International 37巻 271頁～279頁

審査結果の要旨

本研究は、肝癌細胞株HepG2およびHep3Bを用いて、肝細胞癌治療薬ソラフェニブに対する感受性規定因子の同定と抵抗性獲得メカニズムについて検討したものである。その結果、miR-181aはRASSF1の発現抑制を介してソラフェニブによるアポトーシス誘導を抑制することで、ソラフェニブ感受性を減弱させることを明らかにした。これらの結果は、ソラフェニブによる抗腫瘍作用機序や抵抗性獲得メカニズムを解明するにあたり、有用な情報を提供するものである。さらに本論文の内容は、ソラフェニブによる治療効果の改善や肝細胞癌に対する新たな創薬開発に大いに寄与するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認められる。